

# 専念寺通信

## 専念寺通信

九月号 (NO. 97)

あんなに暑かった日が嘘のように、確かに秋がやって来ました。御来寺くださる檀家さまに「お暑うございます。」とごあいさつするのが習慣になっておりましたが、そろそろ違ったごあいさつが必要になりそうです。春・夏・秋・冬の四つの季節の並びが貴重に思える昨今です。みなさま、お変わりなくお過ごしでいらっしゃいますか。

### ☆秋のお彼岸

秋のお彼岸は9月23日の秋分の日をはさんで前後3日ずつ、1週間あります。彼岸のお中日は、昼の長さや夜の長さが同じになります。この日をさかいに少しずつ、日没が早くなり、夜が長くなり、冬がやってくるというわけです。お中日、太陽は真東から昇り、真西に沈みます。太陽の沈んでいく真西に、西方十萬億土の極楽浄土があるとされています。この極楽浄土を思い描き、煩惱に満ち満ちた、苦しみ悩みの多いこちら側から、安らかに穏やかなあちら側へ往生できますようにと祈る期間として、彼岸をとらえることができます。

また、六波羅蜜と呼ばれる6つの徳目を実行に移すための、いわば修養の期間と考えることもできます。六波羅蜜とは次の6つの徳目をいいます。

1. **布施** (ふせ) 与えること。財施 (ものを施す)・法施 (真理施す・無畏施 (恐怖を取り除き安心を与える))
2. **持戒** (じかい) 戒律を守ること。

3. **忍辱** (にんにく) 苦難に耐え忍ぶこと。
4. **精進** (しょうじん) 真実の道をたゆまず実践すること。
5. **禪定** (せんじょう) 精神を統一し安定させること。
6. **智慧** (ちえ) 真実の智慧を得ること。

ひとつひとつの徳目が、一見、単純にみえて、とても奥が深いことに気づかされます。「布施」は金品だけではないのです。また、「苦難」を「乗り越える」のではなく、「耐え忍ぶ」のです。「禪定」などは一日のうちの数時間なら、できる気がします。「精神を統一」し、「苦難」とは闘わず、静かに耐え、ある「戒律」をみずから守り、(現代ならモラルと置きかえて考えてもよいのではないのでしょうか。国の定めた法律でないものも含めて、天に恥じない生き方、と。)そして、「真実の智慧」を得よう

とたゆまず試みること  
(現代なら、様々な噂や報道を鵜呑みにせず、真実は何か、と考える習慣を持つ等)、今の時代に合わせて、今の自分に合わせて考えるととても興味深く、意義深い徳目だと感心させられます。

秋の一日、みずからの生き方を見直してみる機会を持ってみませんか。

平成20年9月1日

大黒

